

九州女子大学  
人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

平成31年度 一般推薦入学試験  
技能特待生入学試験  
小論文

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻  
平成31年度 一般推薦入学試験・技能特待生入学試験  
小論文 試験問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

平らな道で転ぶ。靴ひもを結べない。英宇宙物理学者スティーブン・ホーキング博士の闘病はそんな異変から始まった。難病の筋萎縮性側索硬化症で、当初は余命2年と診断される。21歳の青年はうちのめされた。

30代で車いすに乗り、40代で声を失うと人工音声で会話した。「旧式の装置で交換部品もないけれど、もう自分の声になった」と語っている。

宇宙はどんな過程をへて現在の姿になったか。そんな難題に生涯をかけた。ホーキング理論を説明するのは筆者の及ぶところではないが、覚えている博士の比喻がある。「ブラックホールに人が落ちたら、すさまじい重力で身体はスパゲティ化される」。そういった平易な言葉で宇宙の神秘を語り続けたことも大きな功績だろう。

その動向は常に世間の耳目を引いた。病魔と闘う姿は「ホーキング」という題でドラマ化される。(中略)

車いすの天才が76歳で亡くなった。その年譜をたどると、生まれたのは地動説で名高いガリレオの没後300年の日。少年期のあだ名はアインシュタイン。英大学で就いた教授職の先輩にはニュートンがいる。天才を結ぶ奇縁を思う。

好奇心は晩年まで衰えなかった。熱気球で空を飛び、潜水艦で海にもぐる。無重力実験に挑んだかと思うと、宇宙旅行に参加することも決めていた。星たちのまたたく空間でどんな着想を得たか、あの声で話を聞いてみたかった。

「天声人語」『朝日新聞』(2018年3月15日付日刊):承諾書番号(19-1384)  
(朝日新聞社に無断で転載することを禁止する)

問 本文の内容をふまえ、「困難と向き合う」「好奇心を持ち続ける」この2つのことについて、あなたの考え(意見)を500字以上、600字以内で述べなさい。